

平成26年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額 (円)	決算額 (円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
1 安全・安心まちづくり									
1	継続	麻生区安全・安心まちづくり事業	2,285,000	2,155,167	危機管理担当	・社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民、地域団体、事業者、行政機関等の連携及び協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進める。 ・死亡事故に直結することの多い自転車事故を回避するための判断力向上に向け、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶことを目的に「スケアードストレート交通安全教室（スタントマンによる自転車事故の再現）」を実施する。 ・増加傾向にある高齢者の事故防止のため、民間自動車教習所で高齢者が安全な交通運転技術を習得する「シルバー・ドライビングスクール」を実施する。	・危険ドラッグの研修会、振り込め詐欺の研修会、パトロール手法の講習会を開催 ・パトロール用物品の貸与 ・セーフティメールの配信実施、登録者増加に向けた町会を通じてチラシの回覧依頼、HPでの広報を実施 ・自転車事故防止教室（スケアードストレート教育）、シルバードライビング教育の実施	各事業とも、年度当初で計画したとおり実施した。	今年度の取組みの成果を踏まえ、予算規模、事業内容及び人員とも同様に事業を行っていく。
2	継続	麻生区ガイドマップ増刷改訂事業	978,000	801,360	地域振興課	区民から好評を得ている麻生区ガイドマップを、最新の情報に更新し、改訂版を発行する。配布方法は、転入者に転入時に配布することを中心に、区役所窓口にて必要な方に配布する。転入者に知ってもらいたい、放置自転車等放置禁止区域、路上喫煙防止重点区域の掲載や、転入者が転入して不安のないよう、災害緊急時の井戸の所在地や避難所一覧など防災情報も盛り込むなど、地図情報だけでなく、麻生の各種情報を盛り込んだものとする。	・麻生区ガイドマップの改訂・発行 ・区ホームページの地図データの更新	・麻生区ガイドマップを改訂・発行することによって、転入者及び市民に対して最新の情報を提供することができた。	他区の状況を考慮しながら、現在掲載している項目を基に利用者の意見及び関係機関の意見を参考に掲載内容を検討する。
3	継続	麻生落書き消し事業	149,000	126,884	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施し、落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	・必要に応じて町会に消し方を教え、また要請に応じて作業を行った。 ・11/22に駅周辺の一斉落書き消しを行った。	・落書き消しを行うことで、まちの美観を保持するとともに、防犯効果をもたらした。	市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。
4	継続	小学校区危険箇所案内マップ作製事業	951,000	947,797	危機管理担当	交通災害、犯罪に巻き込まれないことを目的に、平成23年度から、小学校区ごとに交通・防犯上の危険箇所を把握し、マップを作製している。事業を開始した平成23年度は、1年生から3年生までに配付しているが、平成24、25年度は4月に入学する新1年生用に必要部数を増刷、本年度（平成26年度）は全面改訂し、新1年生から新3年生までに小学校を通じて配布する。	小学校区危険箇所案内マップの作製・配布を完了させた。	新入学児童から新3年生までの家庭等に交通・防犯上の危険箇所の周知ができ、交通事故の防止と防犯意識の向上に繋がった。	計画どおり、危険箇所案内マップの発行部数は、新入学児童分を印刷し配布する。
5	継続	地域防災力の向上事業（局区連携）	5,329,000	4,427,711	危機管理担当	公助の速やかな活動を行なうためには災害対策本部の早期設置が重要であるため、ライフライン断絶を考慮した際に必要な区本部用物品の備蓄を進める。また、東日本大震災をはじめとする過去の災害の経験や教訓を生かすことが今後の防災対策の推進に繋がることから、特に帰宅困難者対策と避難所対策の充実を図る。	・町内会・自治会の掲示板等に設置する避難所表示板の作成・配布 ・遠体安置所となる麻生スポーツセンターに投光器及び発電機を配備 ・新百合ヶ丘駅、一時滞在者施設、駅周辺事業者等の参加による帰宅困難者訓練を実施 ・麻生区災害対策連絡協議会において避難所生活の長期化等に対応するための備蓄物品を検討 ・千代ヶ丘小学校で避難所宿泊訓練を実施 ・避難所における生活用水確保のための浄水装置を千代ヶ丘小学校、百合ヶ丘小学校に導入し、訓練を実施	・町内会・自治会の掲示板及び市広報掲示板に避難所の表示を行い、避難所情報の周知を強化した。 ・遠体安置所への投光器、発電機を導入し、災害時の停電対応を強化した。 ・帰宅困難者訓練の実施により課題抽出・検証を行い、災害時対応を見直した。 ・浄水装置の導入により避難所生活のための環境整備を進めるとともに、宿泊訓練により避難所生活への対応力の向上を図った。	・災害時の公助体制の強化を図るため、物品の整備を進め区本部体制の充実を進める。 ・避難所生活の長期化、快適化のため備蓄品の充実や浄水装置の導入を継続して取り組んでいく。 ・帰宅困難者対策は訓練を毎年実施することで、課題改善に取組みながら、一時滞在者施設、駅、区役所との連携体制を強化していく。
6	継続	地域防災力の向上事業（区独自）	509,000	349,777	危機管理担当	自助・共助・公助それぞれの指針となる地域防災計画の修正をはじめ、各種災害対策マニュアルの修正を行うとともに、職員防災プロジェクトチームの運営により、職員の防災意識の向上と緊急時における行動の習得によって、災害対応の充実を図る。また、事務局を担う自主防災組織及び災害対策連絡協議会への支援・連携により、共助体制の強化を図る。	・各種計画、マニュアル類の修正 ・職員防災プロジェクトチームの帰宅困難者対策訓練、研修への参加 ・麻生区災害対策連絡協議会全体会、部会の各テーマに関する検討、推進 ・麻生セーフティメールによる安全、防災情報の発信、加入促進 ・自主防災組織の活動支援（訓練開催支援、資金補助等） ・停電時の区本部体制強化のための、LEDランタン手回し充電ラジオの整備	・計画、マニュアル修正、職員プロジェクトチームの活動の充実、停電時に備えた物品の整備等により、区本部の災害時の対応力の充実を進めた。 ・麻生セーフティメールにより警察署、消防署とも連携しながら防犯、防災情報を適宜発信し、安全・安心なまちづくりを推進した。 ・各自主防災組織の防災訓練開催、資器材整備等を促進した。 ・災害対策連絡協議会の検討を基に、区で初めての帰宅困難者対策訓練を実施し、関係機関の情報共有の仕組みを推進した。	・自主防災組織の防災への取組みを多方面から支援し、地域防災力の向上を進めていく。 ・区本部の災害対応力を充実していくため、新たな要素に基づく計画等の修正、訓練による区職員の実践力の強化を行っていく。
2 地域福祉・健康づくり									
7	継続	あさお福祉まつり	2,344,000	2,343,600	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に知らせると共に、福祉について理解を深める「あさお福祉まつり」を開催する。	平成26年11月16日（日）に麻生区社会福祉大会（麻生区社会福祉協議会主催）と同時開催。福祉関係団体77団体が参加。当日来場者約6,300人。	麻生区では、福祉分野の恒例行事として定着しており、今回も区内福祉団体・ボランティアの活動紹介やパネル展示、高齢者疑似体験や車椅子体験等の各種体験コーナー、福祉施設等の自主製品の販売などを行った。当日来場者は6,000人超で、多くの区民に地域福祉活動を啓発するとともに、地域での支え合い・助け合いの重要性を訴えることができた。また、事業実施に先立ち、運営体制の見直しと必要経費の精査を行い、まつりへの参加団体がより積極的に作業に関わる体制と経費削減を進めることができた。	当事業は今年で25回目を迎え、来場者6,000人規模の実績を誇る、麻生区でも定着したまつりである。また、区民発意のより自主的な運営を継続しており、今後も引き続き事業運営体制や必要経費の精査を行いつつ、区民自らで作り上げる福祉事業として継続していく予定である。
8	継続	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	731,000	647,307	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることに伴って、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。	・体験ウォーク年10回実施 ・公園de健康ウォークを麻生区内6ヶ所の公園で実施 ・区民向けウォーキング普及啓発講習会2回、ボランティア向け講習会1回開催	体験ウォークはほぼ毎回募集定員を上回る参加で、初回参加者は2割程度あり、ウォーキングを始めるきっかけづくりをすることができた。また、区民向け講習会を2回開催し、区民がウォーキングに親しむ機会を設けた。公園ウォークのボランティアを補充するため、ボランティア養成教室を共催で実施し、8名の参加があった。	体験ウォークについては、初回参加者の割合が2割程度であるため、区民に広くウォーキングの普及を図るため、事業内容の見直しを図り、今後の事業の方向性について検討していく。
9	継続	高齢者見守りネットワーク事業	200,000	196,739	高齢・障害課	・事業活動を通じて高齢者と接することの多い民間事業者等と連携することなどにより、異業のある高齢者や何らかの支援を必要としている高齢者を早期に見出し、必要な支援を行うなど、地域社会全体で高齢者を見守る体制を確保し、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりを目指す。	・相談・通報への対応（214件） ・情報交換会を開催し、協力事業者及び関係機関との連携を強化 ・パンフレットを活用した事業周知	・協力事業者等からの相談・通報について、迅速に安否確認ができ、協力事業者及び関係機関等との連携体制を構築することができた。 ・情報交換会に新たにふれあい収集を行っている多摩生活環境事業所を参加者に迎え、地域全体で高齢者を見守るためのネットワークの充実を図ることができた。 ・パンフレットを活用し、区民向け認知症講座等で取組を紹介することで、事業周知及び理解の促進を図ることができた。	麻生区は特に高齢化率が高いことから、地域に密着した事業者と連携を図りながら、高齢者の見守り体制を強化していく。地域包括ケアシステムの実現に向け、情報交換会を活用して、地域社会全体による高齢者の見守りネットワークの充実に向けた取組を推進していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
3 総合的こども支援									
10	継続	子育て支援・企画事業	3,977,000	2,969,571	こども支援室	地域の子ども関連機関や団体と連携し、情報交換、研修、相互協力を行うことにより、地域の実情に合った総合的こども・子育て支援事業を実施する。	子ども関係機関との連携、情報共有により、様々は取組を実施し、子ども・子育て支援の推進を図った。	関係機関、団体との相互協力の下、情報交換や事例検討等を行うことにより総合的な子育て支援に繋げることができた。また、地域に向けて様々な事業を展開し、子育て世帯への支援に繋げることができた。 ・麻生区子ども関連ネットワーク会議 ・全体会、部会、区民向け研修会の開催 ・ばば育児☆ぼけっとガイドの作成、配布 ・子育て関連情報の発信 ・きゅっとハグのあそび、ちびっこおでかけMAP等の作成・配布 ・ホームページ、子ども情報コーナーでのイベント紹介 ・子育て支援アプリの実証実験 ・麻生区子育て人材バンク事業 ・ボランティア派遣による子育てサークルの活動支援 ・制度活用の検討のアンケート調査 ・地域子育て貢献事業 ・未就学児親子向け公演会(2回175名) ・子どもの発達支援事業 ・子育て関係者向け研修(86名) ・子育て中の保護者向け講演会(18名) ・幼・保・小連携事業 ・園長校長連絡会、実務担当者会議、代表者連絡会の開催(計5回) ・幼稚園・保育所・小学校相互の訪問、交流及び情報交換の実施(82回) ・公立保育園地域支援事業 ・貸し出し絵本(420冊)、保育団体験(27名)、お誕生日会(726名)の通年実施 ・ハバ&キッズ(82名) ・親子のあそびの会「にこにっこ」(計12回・388名) ・イオン新百合ヶ丘店との連携による「親と子の遊びタイム」(毎月第3木曜日・493名) ・子育て講座「あそびの会」(726名) ・親子で食事保育食事体験(計63回・162名) ・区内保育園交流・連携事業 ・園庭開放、プール開放 ・サッカーであそぼう(18園316名) ・民間保育園との連携会議の開催(11回)	今年度の実施結果を検証し、事業の構成や内容の見直しも含めた検討を行い、より効果的な子ども・子育て支援を推進する。
11	継続	こども関連大学連携事業	2,727,000	2,656,857	こども支援室	「麻生区・6大学公学協働ネットワーク」を活かし各大学の特色や資源などを活用した、総合的な子育て支援事業を推進する。	・各大学との連携により計画どおり事業を実施し、大学の資源を活用した子育て支援を推進した。	各大学の特色を活かし、地域に密着した専門性の高い事業を展開することができた。また、親子のふれあいや、参加者同士、子育て世帯と大学生等との交流や仲間作りの場となり、地域のコミュニケーション作りを図ることができた。 ・昭和音楽大学との連携事業 ・マタニティコンサート(2回 113名) ・子どもと一緒のコンサート(319名) ・交流コンサート(58名) ・和光大学との連携事業 ・大きなあれ あさおっこ(110名) ・夏休みファミリー体験学習in鶴見川(58名) ・田園調布学園大学との連携事業 ・あそぼう!けろける田園チャイルド(2回 150名) ・キッズワークショップ(41名) ・日本映画大学との連携事業 ・こども映画大学(29名) ・明治大学黒川農場との連携 ・アグリ・エコファーム体験in明大黒川農場(59名) ・玉川大学との連携 ・赤ちゃん学(37名) ・「みつばちのハナシと蜜ろうキャンドル作り」(40名)	今年度の実施結果を検証し、各大学とも調整を図りながら、事業の構成や内容の見直しも含めた検討を行い、より効果的な子ども・子育て支援を推進する。
12	継続	外国籍等こども学習支援事業	543,000	531,529	こども支援室	外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援するため、学校での個別の学習支援や地域拠点(市民館・こども文化センターなど)での集団学習支援を行う。	・学校の授業中や放課後の個別指導 ・区内の公共施設における自由参加による集団支援 ・学校での支援における学校支援センターとの連携	・個々のレベルや実情に配慮した学習支援により、小・中学校における授業内容の理解を助け、学習力の向上を図る事が出来た。 ・長期休業(夏休み等)における集団支援には支援対象児童の家族や友人も参加しており、進路の選択等、児童・生徒の将来へ向けたさまざまな情報交換の場にもなっている。 ・学校支援センターと連携することで、担任との打ち合わせや支援日時の決定など学校との調整がより円滑になり、学習支援活動を効率的に行う事が出来た。 ・自主的な研修会、定例会におけるより良い支援へ向けた情報交換などを通じて、スタッフの支援能力の向上が図られた。	事業内容について、より一層の充実を図り、外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する活動を継続していく。
13	新規	こども相談・要保護児童支援事業	326,000	327,162	児童家庭課	0歳から18歳までの子育てや児童に関する様々な相談に対して、児童家庭課の複数の専門職が役割連携し協力して対応している。必要に応じて、所内他部署や児童相談所、地域療育センター、保育園、学校や、民生委員等とのカンファレンスや会議を実施し課題解決に向けて支援を行う。また、職員の対応スキルの向上を図るため研修会を実施し相談に活かしていく。	事例検討会(10回)、要保護児童対策地域協議会(個別支援会議含む)34回。研修会(2回)。随時カンファレンスを開催した。	要保護児童対策地域協議会では、事例検討やグループワークを行い更に関係機関とのネットワークを強化した。また、地域の民生委員等と連携し、分科会として新たに岡上地区を立ち上げた。事例検討会や、カンファレンスでは、各関係機関と密に連携しケースの処遇について迅速に支援することができた。研修会では、シンポジウム形式で具体的なグループワークを行い職員の質の向上とケース対応に活かすことができた。	虐待予防にむけた早期からのケースの把握や処遇を含め、さらに関係機関等の連携を強化する。また、虐待予防にむけた普及啓発活動について、地域や様々な事業等をおして推進する。幅広い児童家庭相談業務に精通できるような系統立てた研修について本課と共に検討し実施していく。

4 環境まちづくり

14	継続	あさお花いっぱい推進事業	925,000	862,396	地域振興課	区民との協働による地域の環境美化及び地域コミュニティの推進を目的に、川崎市美化運動実施麻生支部と協働し、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体を支援していく。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に、寄与することができた。	今年度は28団体に花苗・球根などを提供し、団体の活動の活性化及び地域の環境美化活動の一端を担うことができた。(昨年度は24団体に提供)	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体の活動の助成、地域に根ざした活動の発展、地域の環境美化に対する意識向上を達成するため、当事業による支援は重要であり、地域の環境美化活動に対する更なる区民の意識の向上、自然の保護や育成に今後継続的に取り組んでいく必要がある。花苗等の提供方法については、効果的な方法を支援団体からの要望等を踏まえ、検証して実施していく。
15	継続	麻生里地・里山保全推進事業	1,180,000	1,179,619	生涯学習支援課	麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然を残しながら、「しんゆり・芸術のまちづくり」などを中心にまちづくりが進められている。しかし、その一方で、心を和ませてくれる里山やのどかな田園風景が、年々失われつつある。このまちの先人達が築いてくれた里山の自然や、その自然とともにある貴重な文化や歴史を継承し、様々な団体や個人との協働や連携を図り、新しい里地・里山の魅力を引き出し、次世代へつなぐための事業を展開する。	人材育成交流事業として、「あさお里山こどもクラブⅡ」を実施した。昨年よりも、充実した学習内容で、子どもたちや若い世代等に里地・里山に興味・関心を持ってもらえた。	・7月～3月 里地・里山カフェ塾を実施した。万福寺人參事業、からむし講座、ファーマーズレストラン等の事業を通じて、里地・里山の恵みを活かすと共に、麻生区の自然保護や伝統農業に対する区民の関心を高めることができた。 ・7月～1月 人材育成交流事業として「あさお里山こどもクラブⅡ」および「里地里山ナチュリスト養成講座」を実施した。現場と向き合い直接麻生の自然に接することを目的として、子どもからシニアまで多くの人が参加した。 ・3月 2015里山フォーラムin麻生を開催した。2部構成で前半を麻生区の小学生による里地・里山をテーマにした学校発表、後半を講師による基調講演や麻生区の里地・里山関連団体の活動発表等を実施し、麻生区の里地・里山の魅力を広く伝えることができた。	今年度は「人材育成・交流」を目的として、様々な事業を実施した。地域の子どもたちや若い世代が例年より多く参加した。次年度以降も継続して若い世代が参加してくれる講座を企画するとともに、そこから当事業のボランティアとして活動を共にしていく人材を育成していきたい。
16	継続	ヤマユリ植栽普及促進事業	363,000	362,122	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の公園緑地管理運営協議会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動を促進、支援し、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	・ヤマユリ植栽地の観察・管理活動 ・開花展示会を1回開催 ・写真展を1回開催 ・ヤマユリ鉢植え講習会を1回開催(球根編)	・地域団体との連携を図りながら植栽地の管理活動を進めることができた。 ・開花展示会での鉢植えヤマユリとパネル展示によりヤマユリ普及のための広報活動を行うことができた。 ・写真展で作品の一般公募を行うことによりヤマユリへの関心を深めることができた。 ・講習会を通じてヤマユリに関する知識の普及ができた。	貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通じて関心を喚起し参加者の拡大を図る。また、そのノウハウの蓄積、普及を推進することにより、地域の環境美化及び地域コミュニティの強化を促進していく。
17	継続	エコのまち麻生推進事業	1,254,000	926,912	企画課	区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する。	・緑のカーテンの実施 ・生ごみリサイクル講習会の実施 ・エコにかかる料理教室の開催	ゴーヤのカーテン、生ごみリサイクル講習会を例年通り実施する他、市民活動団体や企業と連携し、環境に関わる料理教室を開催した。	区内の豊かな緑・環境資源を活かすため、引き続き環境活動を啓発するターゲットを明確にし、あまり意識の低い区民の掘り起し等、普及啓発活動を継続的かつ多角的な視点で、区民との協働により検討・実施していく。
18	新規	農と環境を活かした連携事業	4,000,000	3,963,600	企画課	区民会議第1期「地元農産物と地域交流」第2期「エコのまち麻生の推進」第3期「循環型のまち・生ごみリサイクル」、「グリーンアップ・里山ボランティア」の提言を踏まえ、区内大学や学校、農業振興地域の農業従事者、事業者等と連携しながら、区内にある農業資源(早野・黒川・岡上の農業振興地域、明治大学黒川農場)や緑地などの環境資源を活用した地域活性化や地域交流を促進する。	基本計画及び実施方針(案)の策定。連携協議会を2回実施し、関連部会を2回開催。明大黒川農場収穫祭と併せて、地域における連携イベントを開催	黒川地域連携協議会への参加(年2回)及び地域活性化検討専門部会の開催(年2回)し、関係者相互の理解促進を図った。併せて農と環境を活かしたまちづくり黒川地域基本計画及び実施方針(案)を策定した。また、明大黒川農場収穫祭を通じた農の魅力発信のため、収穫祭での柿折り紙教室の開催や来場者へのアンケート実施による消費者意向把握を行い、併せて芋ほりやブルーベリー狩りを通じた農業体験イベントの実施を行った。	次年度は、黒川地域連携協議会や農業従事者との意見交換等を通じて「農と環境を活かしたまちづくり」黒川地域実施計画を策定するとともに、今年度行ったイベントを核として、他の事業イベントとしてJAせしサ川崎柿生支店での農業祭りなども連携を強化しながら、区民に対する周知・参加を促す。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
5 地域資源活用（芸術・歴史・文化）									
19	継続	麻生音楽祭開催事業	4,100,000	4,053,007	地域振興課	「しんゆり・芸術のまち」の推進と連携し、麻生区を中心に音楽活動をしている音楽団体、小学校・中学校・高等学校などの音楽グループが、それぞれの自主性を尊重しつつ、日ごろの活動の成果を披露し、相互の交流を図りながら、互いに学び合うという精神を生かすとともに、広く区民のきずなを深め、区政の推進と芸術文化の向上を図る場として実施する。	・区民主体の音楽祭の開催 ・舞台運営の講習会の開催	音楽祭を開催し、新百合ヶ丘駅周辺にバナーフラッグを掲げることで、「音楽の街あさお」を多くの市民に感じてもらうことができた。 また、バックステージ講習会により、舞台の裏方の人材育成を行うこともできた。	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。翌年度以降については、事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。
20	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	1,283,000	1,123,770	地域振興課	麻生区の魅力を区内外に広く発信するための事業を実施する。 ・観光写真コンクールの開催 ・観光写真コンクール入賞作品を題材にして記念品の制作	・観光写真コンクールの企画・実施 ・観光写真コンクール入賞作品を題材として記念品の制作	・ポスター・チラシを広く配布した効果により、今年度は子どもの部の応募が大きく増加した。 ・区役所ロビーおよび新百合ヶ丘エルミロードでの展示会や入賞作品を題材として記念品の配布により、麻生の魅力を内外にアピールすることができた。	応募件数の推移や他の写真コンクールの実施状況等を総合的に勘案し、27年度以降は1年おきに実施することに決定した。
21	継続	KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会	925,000	923,728	地域振興課	自然豊かで芸術文化の香り漂い、新たな故郷が感じられるまちづくりが望まれているなか、麻生区に定着している芸術文化資源「KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会」を有効に活用して、「ふるさとあさお」「芸術文化のまち麻生」を提供する。さらには、家族での夏休み最後の思い出作りのお供として提供する。	日時：平成26年8月23日（土） 会場：麻生小学校校庭 来場者：1,614人	・多くの区民が参加し、夏の終わりの思い出作りのお供を提供することができた。 ・上映映画に関連したイベントや、子どもが参加できるアトラクションを実施することで、親子や地域住民の交流の場を提供することができた。	地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を内外に発信していく。
22	継続	ふるさとあさお再発見事業	310,000	309,229	地域振興課	麻生区の豊かな自然の中で育まれた米・野菜・七草を用いて、「古風」の所以である焼いたお餅を加えたお粥を振る舞う。	あさお古風七草粥の会を1月7日開催	七草粥を振舞うことで、多くの市民に伝統文化を再確認してもらうことができた。	地域に伝わる伝統伝承文化を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要であり、また広報等について効果的に行っていく必要がある。
23	継続	あさお芸術のまちコンサート事業	2,209,000	2,140,062	地域振興課	平成12年度より始まった「あさおランチタイムコンサート」が会場を区役所ロビーから区内ホールへ移し名称を改め実施している。区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。	・コンサートの企画・運営 ・音楽家の発掘・人材育成 ・音楽家ネットワークの促進	・地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。 ・1回のコンサートにつき平均して200～300人の来場者があるとともに、毎回来場する根強いファンもあり、区民に期待されるコンサートとなっている。 ・新春コンサートではあさお古風七草粥の会との、シネマサロンコンサートでは川崎市アートセンターとの協力を実施するなど、他団体との連携を図りながら実施できた。 ・開催回数を108回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っており、新たなネットワーク登録者を増やすことができた。	より市民主体の運営を目指していく。開催場所等を見直し、効果的な事業展開を行う。また、今後も他事業との協力・連携を一層図り、効率的で効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家とともに良いコンサートづくりに努める
24	継続	しんゆり・芸術のまち推進事業（局区連携）	5,950,000	5,853,705	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術関係のさまざまな施設や人材などの地域資源を活かし、事業者、教育機関、市民、行政等の連携により、「しんゆり」を中心とした活力ある地域経済の創造、豊かな地域社会の実現と芸術を通じた幅広い効果を追求する「しんゆり・芸術のまちづくり」「芸術・文化のまち麻生」の確立を目指す。	・「芸術のまちづくり」民間推進組織及び芸術関連イベントの支援、民間推進組織による地域情報の収集・発信により、芸術のまちづくりの推進体制が確立された。	「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」と協働し、kirara@アートしんゆり等において地域の大学生が主体イベントを実施。また、ホームページやSNSの活用や新百合ヶ丘駅南口バスターミナルに柱巻き広告を掲出し、年間を通じて「しんゆり・芸術のまち」「芸術文化のまち麻生」を広くアピールした。川崎市アートセンターを活用し、区内の芸術・文化団体が集まる「あさお芸術・文化交流カフェ」を開催し、交流を促進することで芸術関連活動の支援を行った。	引き続き、「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取り組みを進め、芸術関連組織の行う活動を支援して芸術のまちづくりを推進するとともに、芸術・文化を中心とした地域情報の収集・発信を行う
25	継続	郷土岡上の歴史・文化継承事業	200,000	200,000	生涯学習支援課（岡上地区担当）	・岡上に関わる古くからの歴史資料を収集・整理し、資料集としてまとめ、将来に伝えていく。 ・地域に残る古文書や石造物などから岡上の歴史を学びあい、共に考えることにより、区民相互の交流を深め、地域の特性を活かしたまちづくりを推進する。	・岡上地区の歴史資料を収集整理し、一般に公開。 ・岡上地区の歴史・文化継承事業の実施 ・古文書講座の開催 9月～2月全5回 ・文化講座の開催1月全1回 ・情報の収集と発信3月予定	・古文書講座及び文化講座を広く麻生区に広報し、多くの区民に事業に参加してもらうことができた。岡上を流れる鶴見川水系から地域の特徴を再発見していく内容となり、新たなふるさと岡上の良さを伝えることができた。また、かつての岡上の様子を伝える写真を地元の方に説明をしていただき、温故知新の知恵をこれからのまちづくりに生かす術を考えるきっかけを提供し、次年度のまとめにつながる内容となった。	これまでの事業のまとめとして、ふるさと岡上の郷土意識を高める情報を広く提供することで、地域の見直し、飛び地である岡上のまちづくりを考えていく方向につなげていく。また、今後のまちづくり案を提言する。

6 地域資源活用（スポーツ）

26	継続	スポーツのまち麻生推進事業	4,117,000	3,593,572	地域振興課	川崎フロンターレ麻生グラウンドを始めとした、区内のさまざまなスポーツ資源を活用した事業を実施するとともに、麻生スポーツセンターを核として、地域のスポーツ関係団体の活動の支援や情報交換を通して、魅力あるスポーツのまちづくりを推進する。	・青玄まつりを実施したほか、上記について計画的に実施した。	・青玄まつりやホームゲーム応援バスツアーの実施をはじめとする上記の取組を着実に実施したことにより、区内スポーツ活動の活性化と区民の健康増進に寄与することができた。	来年度も、より効果的・効率的な進め方を検証しながら、引き続きスポーツのまち麻生の推進に取り組んで行く。
----	----	---------------	-----------	-----------	-------	--	-------------------------------	---	---

7 地域資源活用（その他）

27	継続	イメージアップ推進事業	1,910,000	1,685,584	企画課				
27-1	継続	懸垂幕作成業務			地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等を応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出、新百合ヶ丘駅南口バスターミナルの柱に芸術・文化関連イベントの広報物を設置することで広く地域住民にPRする。	・川崎フロンターレ大久保嘉人選手ワールドカップ日本代表選出祝懸垂幕及び柿生フィリーズの全国ミニバスケットボール大会出場祝懸垂幕を掲出 ・アルテリッカしんゆり開催PR懸垂幕の掲出 ・新百合ヶ丘駅南口バスターミナル柱に芸術・文化関連イベントの柱巻き広報物を設置	・川崎フロンターレ大久保嘉人選手ワールドカップ日本代表選出祝懸垂幕及び柿生フィリーズの全国ミニバスケットボール大会出場祝懸垂幕を掲出したことで区民へのPRができた。 ・「アルテリッカ・しんゆり」の開催を地域住民にPRできた。 ・新百合ヶ丘駅南口バスターミナル柱に芸術・文化関連イベントの柱巻き広報物を設置したことで「しんゆり・芸術のまち」「芸術・文化のまち麻生」をPRすることができた。	今後も、区のスポーツ・文化活動において、懸垂幕の掲出や柱巻き広報物の設置を行い、広く地域住民に広報して行く。
27-2	継続	新百合ヶ丘駅周辺のイベント支援事業			企画課	公民協働の取組のうち、「kirara@アートしんゆり」を区の共催事業と位置付け、イベント開催に係る参加と支援を行う。	イルミネーションイベントに共催者として参加した。イルミネーションイベントの広報支援のために負担金を支出した。	イルミネーションイベント「@kirara@アートしんゆり」に共催者として参加した。また、イルミネーションイベントに広報支援を目的として負担金を支出した。これらの取組を通じて、「しんゆり芸術のまち」推進に寄与した。	芸術・文化のまちづくりは、区計画の主要な取組としても位置づけられており、民間が主体となった活動と連携した取組を行うことが重要であることから、適正な目的・負担額の範囲で継続していく。
28	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	1,200,000	1,137,366	企画課	地域の特色や教育機関、企業等が持つ資源を活用し、各種団体と協働して魅力ある地域づくりに取り組むことを目的として、法人・団体等から地域資源を活用した事業の提案を受けて委託することで、区のイメージアップを図る。	麻生観光協会、昭和音楽大学、川崎フロンターレと連携し、委託事業を実施	・禅寺丸柿発見800周年を記念したスタンプラリーや区内小学校への禅寺丸柿の木の植樹とプレート設置について、各団体と連携し区の木禅寺丸柿の周知を行った。 ・麻生区・6大学公学協働ネットワークを通じて、明治大学「黒川農場収穫祭」で、昭和音楽大学学生によるミニコンサートを開催し、芸術まちづくりの寄与と農のイメージアップを図った。 ・川崎フロンターレ新体制発表会見のコンサート一部に、一般市民によるゴスペルコンサートを行い麻生区の歌を披露したことにより、麻生区の魅力である音楽資源をPRすることに寄与した。	麻生区の木「禅寺丸柿」の周知に加え、区の花「ヤマユリ」についてPRし活用方法について検討するとともに、各団体との連携も模索していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
8 地域コミュニティ活性化推進（やまゆり）									
29	継続	麻生区市民活動支援施設利用促進事業	1,481,000	1,315,793	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を麻生区における多目的な市民活動支援拠点として位置づけ、同施設の市民活動支援の推進を図ることを目的として業務を委託する。	・交流イベント、人材育成講座等の実施 ・地域ネットワークサイトの運営及び区民記者の養成 ・市民活動相談窓口の運営	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関わる業務を行うことで、市民の活動の場や機会を広げ、市民活動の更なる活性化につなげた。また、施設に印刷機やパソコン等の機器を配置し、市民がより活動しやすい環境を形成した。	引き続き、地域活動への参加促進のための情報収集・提供を積極的に行うとともに、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。
30	継続	麻生区市民活動支援施設活用事業（局区連携）	8,137,000	8,137,000	地域振興課	当該施設は、新百合ヶ丘南口・旧あさひ銀行グランド跡地の土地利用転換に伴い、応分の負担として開発業者が「市民活動の拠点施設」を整備することが決まり、平成19年4月に市に寄贈され、供用開始した。当該施設を多目的な市民活動の拠点施設として整備するとともに、市民の主体的な運営参加を実現することにより、市民活動の一層の推進を図る。	・市民活動支援施設として、場の提供、情報の提供、人材育成に寄与	運営するNPO法人あさお市民活動サポートセンターへの委託事業及び自主事業の展開により、市民活動の支援を行い、市民が更に活動しやすい環境を形成した。	施設の運営及び利用率が安定してきているため、今後は現利用者のニーズは勿論のこと、利用を検討している団体のニーズを把握し、更なる利用拡大を目指す。また、施設内で実施されている事業についても、内容について精査し更なる事業展開を行う。

9 地域コミュニティ活性化推進（町会・地域）

31	継続	麻生区地域コミュニティ活動支援事業	885,000	751,972	地域振興課	「麻生市民交流館やまゆり」を通じ、麻生区における市民活動団体等の地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を支援することを目的に、資金助成事業を行う。	・提案型事業の募集・選定・実施 ・選定された事業の支援 ・事業実施報告会の開催	事業に対して支援やアドバイスを行うことで、市民団体の活動の幅を広げるとともに、新たな事業を開始する機会を提供した。	来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく
32	継続	麻生まちづくり学校事業	300,000	297,925	地域振興課	麻生区のまちづくりを進めるために必要な知識の取得、情報の提供、調査、研究、まちづくりを担う人材の育成及び地域主体のまちづくりの推進を行う。	・年間5回の連続講座・ワークショップを実施	ワークショップ及び施設見学により、芸術のまちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶことができた。	概ね事業目的を達成できたことと、同様の講座が市民主体で開催されている等の環境の変化に鑑み事業を終了とする。
33	継続	町内会事業提案制度事業	1,016,000	524,097	地域振興課	地域住民相互のつながりや地域の課題解決力の強化を目指し、区内の町内会・自治会が行う地域課題解決等につながる事業を支援する。町内会・自治会から事業提案を受け、審査を経て、当該町内会・自治会に事業の実施を委託する。	26年度4件の提案があり、いずれも審査の結果認定され、委託契約を締結している。	本事業の実施により、提案元の町会・自治会の地域の活性化、イメージアップ、住民の交流の促進等に資することができた。また、町会・自治会が自ら地域の課題を発見し、解決する課題解決能力の向上を図ることができた。	現状どおり事業を継続する。提案を行う町会・自治会が固定化する傾向があるため、広報に積極的に取り組み、今まで利用がなかった町会・自治会の本事業の利用を促進していく。
34	継続	麻生区地域功労賞事業	47,000	23,313	地域振興課	地域活動への関心を高めることを目的として、地域の活性化に貢献している個人または団体を麻生区長名で表彰する。	26年度は個人2件、団体2件の推薦があり、審査の結果、全て選考され、あさお区民まつりにおいて表彰した。	本制度については、表彰者には大きな励みとなっているほか、住民の地域活動への参加を促進するきっかけとなっており効果は大きい。	本事業は、費用に対して効果の高い事業であり、今後も一層効果的・効率的に実施できるよう検討しながら実施していく。
35	継続	麻生区多文化共生推進事業	573,000	567,636	生涯学習支援課	市民と協働により事業を実施する。多文化共生を題材とした講演会や講座、麻生区在住の外国人市民との交流を通じて、多文化共生社会への理解を深める。次世代を担う子どもの参加できる事業や、多文化共生社会への関心が薄い市民に対しても興味を持てるような様々な事業を企画しながら、麻生区内において多文化共生社会の実現を目指す。	連続講座を開催することにより参加者の理解がより深まり、新たな活動の担い手を育てることができた。交流会の開催方法に新たな取り組みを導入し、参加者の開拓を行った。	・国際理解講座の実施を、12月に3回開催、講座参加者が事業の企画委員に加わることができた。 ・多文化共生に関する講演会を、昭和音楽大学と連携して開催、今まで参加が少なかった学生や若年層の参加を促すことができた。 ・外国人市民との異文化交流会を、NPO法人の協力を得てフェスタ形式で行った。体験型の要素を入れることで、参加者が楽しみながら積極的に関りあえるようになった。	今年度試行的に、カフェ形式での交流会を行ったところ、多くの外国人市民が参加し参加者同士の交流の親密さが深まった。次年度以降も事業の企画運営方法を見直すとともに、発想の転換を図るなどして効果的な事業執行を行っていく。
36	新規	市民活動推進に向けた地域人材の発掘・育成事業	150,000	134,535	生涯学習支援課	地域人材育成及び発掘による、市民活動・地域活動の活性化を図るため、外部団体への事業委託により、市民活動を支えるため、多様な分野で活躍する人材や地域課題解決のための人材育成など、総合的な視点に立った人材育成について、講義形式やワークショップ形式による「市民活動に関わる人材育成講座」や「講演会」を開催する。	講演会と市民活動実践入門講座を開催し、まちづくり参画への関心を喚起した。	・11月に講演会を開催し、元国立市長を講師に迎え、市長時代に行政と市民が協働して取り組んだ事例を紹介してもらい、協働のまちづくりの意義などについて、参加者に関心を持ってもらう事ができた。 ・2月～3月には「市民活動実践入門講座」を開催し、実際に行政が区民に期待するまちづくりへの参画や市民活動がまちづくりに発展する事例等について、講座を通して実践的な内容を提供し、シニア層を中心に毎回多くの区民の参加が見られた。	今年度実施した、「人材育成事業」については継続して実施し、人材の発掘、育成を行う。また、地域人材を市民活動・地域活動へ繋げていく仕組みづくりを整備するため、「地域人材コーディネーター養成講座」を開催する。
37	新規	町内会・自治会加入促進事業	1,571,000	948,360	地域振興課	平成20年度に制作した「町会・自治会ガイドブック」の改訂版を制作し、転入者や未加入者に配布する。	町会・自治会の役割等を分かりやすく解説した他、エリア図を最新のものに更新するなど内容の充実を図って改訂し、広く配布した。	区町連の「加入促進委員会」と連携し、掲載内容や配布方法を協議したことで、内容が充実した他、効果的に配布を行うことができ、未加入者の加入促進につながった。	町会・自治会の加入促進については、継続した取り組みが必要であるため、今後も定期的に増刷及び改訂版の作成を行い、加入促進の取り組みを進めていく。

10 区役所サービス向上

38	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	3,073,000	3,030,134	区民課	区役所サービス向上指針に基づき、市民に便利で快適なサービスの効率的、効果的かつ総合的な提供を図り、市民の視点に立った区役所サービスの充実を推進する。	・混雑期に臨時職員を配置し、窓口案内等を強化した。 ・接遇スキル向上のため、接遇研修を実施した。 ・庁舎案内リーフレットを作成した。 ・TV通訳システムの活用により、外国人等に対する円滑な接遇を行った。	・混雑期に窓口案内等の臨時職員を配置することにより、スムーズで適切な案内・誘導ができた。 ・職員の接遇姿勢や接遇能力向上のため、各種接遇研修を3回実施し、100名以上の職員が受講した。 ・庁舎案内リーフレットを作成・活用し、的確でわかりやすい案内に役立てた。 ・ボイスコール機を引き続き活用することにより、わかりやすい窓口案内ができた。 ・窓口において、外国人等に対する正確かつ円滑な接遇を行うため、TV通訳システムを引き続き活用した。	市民の皆様快適に区役所を利用いただけるよう、引き続きソフト・ハード両面から窓口サービスの充実・改善に取り組んでいく。区役所の老朽化等により、バリアフリー等を配慮する必要性や待合環境、相談窓口等の環境整備の必要性が増大していることから、経費を要するものについては、区役所全体で総合的に優先順位を決定し、計画的に整備を進める必要がある。
39	継続	区政・地域情報提供事業	3,508,000	1,913,438	企画課				
40-1	継続	麻生区統計白書作成			総務課	平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかになった麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成24年度は3年ぶりの全面改訂を行い、「もっと好きになる麻生」を7,000部作成した。平成25年度は、一部改訂し、8,000部を作成した。平成26年度は、一部内容を修正し増刷する。また区のホームページにPDFファイル版を掲載し、紙媒体を入手できない区民以外の方々にも区の魅力や特徴を提供している。	平成25年度作成の統計白書の一部内容修正を行った。平成27年度配布用8000部作成。	平成25年度に作成した統計白書を例年のとおり、転入者への配付や区役所・図書館・市民館への配架を行った。また、中学3年生を対象として麻生区内の市立中学校へ配付を行った。増刷の際は、一部内容修正を行い、翌年度の配布に備えた。	現在配布しているものについて、区民の方だけでなく他市の方からも好意的な声が多く、将来的にも継続していくことが地域情報の提供に大きく寄与すると思われる。平成27年度には、前回の全面改訂から3年経過することから、事業を継続し全面改訂を行いたい。改訂にあたっては費用対効果を追求、企画提案方式により委託業者を選定する。
40-2	継続	麻生区広報関係事業			企画課	区役所職員の広報・広聴業務に関するスキルアップを図り、区民にとってわかりやすく親しみやすい広報・広聴活動を行う。	・ホームページの更新 ・広報・広聴研修の実施 ・子育てフェスタの開催 ・家具転倒防止対策パンフレットの配布 ・SNS（ツイッター）の開始	第4期区民会議の提言を受けて、子育て情報を提供するための子育てフェスタを4月に開催。約2500人の来場者を集めた。また、家具転倒防止対策のパンフレットを制作し、防災組織等をはじめ、区民に広く配布した。区の地域資源「禰寺丸柿」を周知するため、9月からSNS（ツイッター）による広報を開始した。広報広聴推進プロジェクトでは、市民活動団体の講師を招き、「着ぐるみ講座」や「色と地域PR」等の研修を開催。研修成果の発表の場として、明治大学黒川農場の収穫祭でブースを開いた。	「川崎市シティプロモーション戦略プラン」の方針を考慮しながら、区の広報広聴推進プロジェクトのあり方や実施内容を検討し、引き続き、市民が利用しやすい環境提供などを、実務を通じて検証していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額 (円)	決算額 (円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
11 その他経費									
41	新規	区の新たな課題即応事業	5,000,000	3,324,240	企画課	年度途中に発生する新たな課題に、区長の権限で適切かつ迅速に対応するための事業を実施する。	・白山中学校跡地敷地内の危険性のある枯木の除去 ・白山中学校跡地のグラウンドと隣接する老人ホームの境界に防球ネットを設置 ・麻生市民館岡上分館の隣接宅に被害をもたらす銀杏の木 の剪定	実績に記載の事業を実施したことで、年度途中に発生した区の新たな課題について、迅速に対応することができた。	今後も、年度途中に区の新たな課題が発生した場合は、所管課や関係局と調整し、迅速な対応を行う。
42	継続	事務費等共通経費	1,031,000	945,171	企画課	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品意等を確保する。	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入した。また、郵便料、複写品費等を適正に執行した。	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入し、郵便料・複写品費等を適正に執行し、各事業を円滑に実施した。	地域課題対応事業を円滑に実施するために、今後も事務費等を適正に執行し、区民サービスの向上を図る。
43	継続	麻生区地域課題解決型提案事業	3,404,000	2,420,860	企画課	地域課題の発見と解決を図る新たな提案型事業を公募し、事業選定審査委員会の意見をもとに事業決定する。決定した事業は、市民活動団体等の提案団体と協働の理念にのっとり、事業を委託して実施する。	・事業進行の整理と検討 ・25年度事業報告会の実施 ・26年度中間報告、実施報告 ・27年度事業の募集、審査委員会による事業選定	26年度は7提案中5事業を選定し、団体からの提案を区と提案団体が協働して実施することで、多様な分野における区の課題の解決につなげることができた。また、27年度は5つの提案があり、審査委員会を通じて、必要性、新規性、実現可能性、具体的効果などに基づき選定し、4事業を実施する。	区では、対象を異にする4つの提案型事業を実施しており、他の提案型事業と目的、要件、事業内容等のすみ分けを明確にし、必要に応じて事業の併合等検討しながら実施していく必要がある。
合 計			81,151,000	71,130,607					